五月八日夕刊

常磐毎日新聞

日曜祭日の翌日休刊

定價一部金一ケ月金五拾錢 郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 叶崎多治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話六二〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

谷底と富士山

眞繼雲山

（一）

宗教とは感恩の生活である。然るを佛天の恩寵を否定する人々は、ナニ俺れの家に住んでゐるんだ、俺れが働いて作つた米だ、俺れが稼いだ金で買つて食うのだ、と一かとの理窟を並べるが、材木にせよ、菜つ葉にせよ、米一粒にせよ、魚一尾にせよ、人間の力で作つたといふものは一つもない、皆んな天道樣が作り給ふたのを人間がロハで取つて來て、それに勝手な値段を附けてゐるのである。人間式な經濟的の價値といふのは天より貰うたもの（或は默つて持つて來たもの）に對する採集料や運賃や手數料を加算して、市場の取引値段としてゐるのである。鰯一尾でも海に向つて代價を支拂つたものがあるか。他の生命を無斷で奪つて來て、禮一つ言はずに旨い、まづいと贅澤を並べるとは無禮不知恩も甚しい。若し海に代價を支拂はねば鰯一尾とることは罷りならぬと成つたら、人間の經濟生活は破産の外あるまい。

食物だけについて考へてみても、私たち一切の生類は決して無生物たる土や石や金を食うて生きることは出來ぬ、野菜にせよ、穀類にせよ、魚類にせよ、それはことごとく一個の生命である。その生物の命を奪ふて我が生命の糧とするにあらざる限り生きてはゆけぬ則ち甲の生命を移して、乙の生命としてゐるものであつて、一つの生命は他の多くの生命の犧牲の結晶であるを知るとき、私たちは相濟まぬといふ懺悔を念としつゝ謙虛な生活を營むの外はない。

或る他の家庭を訪れる時小やかな食事の仕草一つによつてもその家の信仰の程度が分る、先づ箸を採るに當りては合掌か、頂禮か默禱か、必ずその一があつて然るべしと思ふ。副食物の如何によりて不足の思ひをなし贅澤を並べるに至りては心事の下劣論外とすべきのみ。

私は常に、子供や書生に向つて誡めることであるが世間の家庭では往々にしてお櫃の御飯を茶椀につぐ時に杓子を以つて飯を堀り下げ谷底のやうに眞ん中に穴をあける人がある、この人はその人格おそらくはゼロである。

ノート

泥はね、齒みがき白粉、ばい煙、白黴等はそのまゝ乾かし、ピロード羅紗布で刷き除く。

＝明日の献立＝

【朝】すまじ汁—ふきの子　竹
【晝】かき揚—みつ葉　イカ
【晩】木の芽酢みそ—セン竹の子　燒油揚　むきみ

美味！芳醇！
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

耳鼻咽喉科專門
入院應需
平町田町七〇番地
山内醫院
醫學士 山内亨吉
電話六九一

横濱植木會社の
春蒔き草花種子が
まいりました
種子は輸出向きの優良質
植木會社の特撰品です
二丁目
西村藥局種子部
（草花種子の蒔き方）差上ます
球根、塊根類の御注文も御受けします

耳鼻咽喉科專門
氣管食道科
平南町（電話一七〇番）
大和田醫院

合服とレインコート
御召替の節です……
キット皆樣の御氣に召す
1933の春の新製品を豊富に
取揃へ陳列して御座います。
新柄背廣……12.00ヨリ
黑セル背廣……9.00ヨリ
レインコート……9.00ヨリ
バーバリ……3.20ヨリ
トレンチコート……5.00ヨリ
ふかや洋服店　平三電203

木炭代用この上のない經濟の
徳用な豆炭
壹袋正五貫目入金八十錢也
御注文次第御届ケ申シマス
三丁目（電話六六三番）磐崎屋酒店
一町目（電話五九六番）菅本武雄商店
白銀町（電話二九九番）水野氷店
六町目 矢吹石炭商店
平驛前（電話三七番）
阿部石炭商店
◎特約店募集致シマス

春のトレンチコート　7.50ヨリ
春のバアバリー　3.00ヨリ
春の正札堂特製トンビ　8.50ヨリ　18.00マデ
春の紺セルネヅミ セル外套　4.50ヨリ
春の三ツ組セビロ　7.50ヨリ
平四丁目停車場通り
正札堂
電四三六番

湯本水道竣工式

昨日盛大に擧行

人出五萬未曾有の殷賑

喜びに包まれた石城郡湯本町上水道竣工式は溫泉神社祭典を下し七日午前十時より湯本町舊小學校々庭において盛大に擧行された來賓には赤木知事、鈴木佐藤、比佐の三代議士、井上、野崎の兩縣議、諸橋久太郎、小林平土木監督所長、吉田入山採炭會社社長その他有力家等二千五百名の多きに達し溫泉神社々掌佐波古氏の手によつて嚴かなる祭儀が行はれ次で石川町長、赤木知事、鈴木、比佐の兩代議士、金成好間村長、井上縣議、渡邊入山專務、吉田入山所長その他數氏の祝辭、吉田技手の工事報告があり既報の如く鈴木、比佐兩代議士外工事功勞者に對し石川町長より夫々感謝狀表彰狀を贈りて午後三時式を閉じ祝宴に移つた、同町は早朝より花火が打上られ戸毎國旗を掲げ色々の裝飾を施し各種の餘興もあり未曾有の殷賑を呈し入出實に五萬人と稱せられた

組合幹部は

飽迄解散の腹

昨日の濱木炭役員會で八名の中存續派は三名

濱三郡木炭同業組合では組合を解散させるか存續させるかに就て七日午後二時から組合事務所で役員會を開き最後の協議をなした結果出席八名の中五名は飽迄解散を叫んで止まず存續派は僅かに三名に過ぎなかつたので組合で殆んと手の下し樣がなく結局代議員會を召集して態度を決定する事になつたが早川組合長以下當面の理事者は代議員會に於てもしも存續派が前回通り破れるが如きあらば進む

を得ずとなして高壓的に縣より解散不許可の指令を仰ぐべく決意したものゝ如くである

今年の麥は

比較的不良

平年作に比べて

石城郡神谷農事試驗場で最近調査した本年度麥作の發育狀態は早生、中生、晩生の總平均は草丈二尺七寸張莖數八十三本弱で平年作の草丈二尺八寸弱莖數六十五本强に比べると草丈は稍々不良で莖數は十餘本の增加を見たのは冬期の天候惡く其後雨量も適當にあつて挽回せる結果で總体を平均すると平年作よりは幾分不良の狀態にある

木檢査吏員の採用試驗今日施行

檢査の實地試驗も行ふ

濱通りに於ける本縣木炭檢査吏員の任用試驗は本日磐中會議室に於て佐藤、井出渡邊、原田各委員の下に施行されたが試驗科目は法制算術、作文、實地試驗、口實試驗等にて受驗者は二十七名であつた

（問題）

法制（壹時間）

一　無能力者の種類ヲ擧ゲヨ

二　立木ハ動產ナリヤ不動產ナリヤ

三　代理人ガ本人ノ爲ニ物品ノ購入ヲナシタルトキ其ノ代金支拂ノ義務ハ何人ニ在リヤ

四　同業組合ニ於テ缺クベカラザル役員名ヲ記セ

五　同業組合ノ地區ノ範圍ニ如何ナル制限アリヤ

算術（拾分）

珠算

左ノ諸問ニ答ヲ問フ

一　「六千七百二十八」ニ「二千三百六」ヲ乘ゼヨ

二　「三十九萬七千七百八十二」ヲ「五百三十九」ニ除セ

筆算（四拾五分）

左ノ諸問ニ就キ式及答ヲ問フ

一　或ル木炭檢査員ノ一ケ月ノ檢査總數一萬五千八百俵ノ中特等千八百九十六俵、一等六千百六十二俵、二等七千二百六十八俵、不合格四百七十四俵ナリシト云フ、各等及不合格ノ檢査總數ニ對スル割合ヲ百分率（パーセント）ニテ示セ

二　一「ヘクタール」當材積四十五立方米ノ櫟林三十七「ヘクタール」アリ今之ヲ購入シ製炭スルトキハ木炭幾瓩ヲ生產シ得ベキカ　又其レヲ正味四貫俵ニ作レバ幾俵トナルカ　但シ櫟二立方米ヨリ木炭百八十瓩ヲ生產スルスノトス

三　木炭三十瓩俵ト十五瓩俵ト合セテ六十二俵重量千三百五瓩アリ各幾俵ナルカ

作文（壹時間）

一　日用文

本炭檢査吏員任用銓衡試驗合格ヲ友人ニ報ズル文

二　公用文

木炭生產著シク增加ニ檢査吏員應援方申請ノ件

「注意」一文每ニ別紙ニ認ムベシ

生繭仲買の免許證交附

平町だけで卅四名

平蠶業取締支所では去月末日を以つて無効とされた生繭仲買商の免許證再下附に就て此の程平町の繭仲買人左記三十四名は許可されたが最近繭價高を越して不正仲買人も相當出る模樣なので嚴重に取締る事になつた

水野猪吉　長谷川權藏
佐藤胖　青木保太郎　會川初太郎　鈴木房吉　生田目忠助　本田富七　古川直一　山口照鉞　新妻壽太郎　松本虎吉　秋元政之　大泉信雄　白土貞三　小沼春吉　阿島勘吉　金子光一　長谷川末吉　野崎半治　藤田初之輔　白土關一　阿部德平　廣木榮之助　石井龜吉　大谷榮松　近藤ツメ　近藤繁治　鹽澤八十松　佐久間淺吉　白土泰造　林豊一　後藤幾之助　松本松治郎

盛澤山の催し物で

創立記念日を祝ふ

平商校の三日に亘る記念祭

平商業學校の創立二十週年記念日は愈々二日の後に迫つたので同校では商友會と協力し盛大な記念式を擧行するが當日は大アーチを正門に建てるやら校舍を萬國旗で飾るやらいやが上にも祝賀氣分をそゝる事となつておる尙學校に於ける催しものは左の如く決定された

十日記念式及び追悼會
十一日武道大會
十二日磐中對抗野球大會

郡下の勸業主任會

十日取締支所で

石城郡下各町村の勸業主任會は來る十日午前九時より平蠶業取締支所に於いて開會農村匡救桑園整理改植補助金交附要領並に蠶虫驅除奬勵規程及び督勵委員設置等に就いて協議を行ふ

鈴木登美子さんを優良兒童に推薦

條三郎氏の御令孃

平第二小學校にては東京朝日新聞社主催文部省後援の下に行れる全日本健康優良兒童表彰會に田町六十番地鈴木條三郎氏次女登美子さんを推薦したが登美子さんは目下尋常科第六學年生にて身長一四三・五糎、体重三八・八瓩、概評甲、六九・五糎、坐高八一・三糎あり成績頗る優良にして運動記錄は五十米七秒八、走幅跳四米四十三、バスケットボール投十五米九十三等である

小川青年總會

石城郡小川村青年團では來る十一日午前九時より村役場に於て幹部會を開き春期總會開催に就いて協議すると

平町人事

回婚姻

△飯野村字東五一　小野忠太氏（五五）長橋町四〇植頭サト（三八）

△南町四九　當時東京市目黑區下目黑二丁目四三九鈴木勇氏（三二）栃木縣下都賀郡赤塚村字原宿早乙女トメ（二五）

△双葉郡新山町字八房平二二八　山本角次氏（三一）新川町一二　三森愛子（二二）

△大坂市東成區大會里町四三二　竹川德氏（三四）三丁目一　森村千代（三〇）

回死亡

△三丁目四十　當時宮城縣登米郡豊里村字二ッ屋片倉忠治（六八）

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町
電一〇七

立候補確定既に廿二名
新顔は少なく
以然舊、現議員が多數
―愈々迫る平町議戰

愈々二旬の後に迫つて來た町議改選は各區に於ける豫選會も過般數は終了して候補者の顔振れもほゞ決定されたが現在のところ出馬確定したのは

吉村安次郎（古、研）大谷要次郎（同）馬目雅治（紺屋町）吉田寅之輔（同）坂本隆藏（一町目）關内正一（二町目）馬目武之助（五丁目）井上茂作（同）鈴木光吉（鎌田）猪狩歡德（同）佐藤岩次郎（同）多田井笑次郎（大工町）佐々木龍若（鐵北）松崎長三郎（新川町）新井滋造（北目）花澤久一郎（胡摩澤）高橋龜松（白銀町）櫻井清（同）酒井清（田町）野崎萬藏（同）萩原義雄（鍛冶町）綠川喜三郎（搔槌小路）

の二十二名で殘るは僅かに八名となつた然し南町、材木町、六丁目、仲間町、搔槌小路方面から十名近くその他から二三名の立候補あるものと推測されておるが結局候補者は定員より四五名增す模樣で前回に增した激戰が日ならずして展開されるものと見られておる

縣道路工夫表彰

平土木監督所道路工夫松本留之助、松本久松の兩氏は多年勤務に精勵を盡し自動車運輸業者間より感謝されて居たが今回自動車協會四倉支部から表彰される事になつた

曾我校長の校外取締に就て
注意

平第一小學校では本日校外取締として曾我校長が全校兒童に左の如き注意を與へた

一、落書をせぬ事、落書を見つけたる時は直ちに消す事
一、ベッタの如き賭に類する遊びをなさぬ事
一、道路に於て遊戲をせぬ事、自動車の如き交通機關に就いて特に注意する事
一、活動寫眞は學生デー以外は絕對に見ぬ事、學生デーと雖もなるべく見ぬ樣習慣つける事
一、禮儀を正しく言葉遣ひに注意する事
一、神社佛閣の境内に於ては不敬の行爲、樹木等を傷めぬ事
一、往復途中に特に下級生を親切にいたわる事

空巢ねらいの……
眞最中取押へらる
田村生れの松本己之吉（三六）

石城郡湯本町字關船高萩條吉方で昨七日午後八時頃一家擧つて水道祝賀の提灯行列を見物に出掛た留守中に賊忍び入り簞笥の中から三十圓記入の郵便貯金通帳を窃取逃走せんとする物音を近所の者が聞つけて取押へ直に平署に突き出したが取調の結果此奴は田村郡御臺村生れ住所不定松本己之吉（三六）で前日隣家の高木某方での盜難も同人らしいので平署で目下嚴重取調中である

強盜誤認事件
圓滿に解決
被害者は見舞金を國防費に献金

石城郡飯野村大字中山矢吹淺之助（四〇）が去る正月二日午後十二時頃同村鈴木角郎（三一）が泥醉の末家を間違ひて入つたのを强盜が押し入つたものと見て矢庭に日本刀を持て角郎に斬りつけ頻死の重傷を與へた事件は盜犯防止で無罪になつたが其後被害者の兄伊勢松（四一）は無罪とは餘り非道過ぎると加害者淺之助を相手取り損害賠償請求の告訴をなしたが三堀檢事の斡旋に依り去る五日見舞金として百五十圓を與へ示談成立したので被害者角郎は軍人だからとて百五十圓の見舞金の半額を國防献金として其筋に寄附をしたと

夫は自殺し
一人娘は早世し
途方に暮れて救護願
涙に綴られた中年女の物語り

昨七日午後九時頃平署に救濟方を願出た婦人に就て係官が事情を尋ねると同人は栃木縣那須郡木幡村字岩舘生れ吉田リウ（三三）で昨年十月北海道室蘭市朝日町で夫輝二郎と乾物商を營で居たが輝二郎は事業に失敗してカルモ自殺を遂げた爲め無一物となつて鄉里に引揚る途中本月一日双葉郡富岡町で獨り娘のマキ（一五）に病死され自身も姙娠五ヶ月の身重なので働きも出來ず進退全く谷まつて救を求めたと云ふ涙の物語りであつたので非常に同情し同夜は内鄉村の木賃宿に宿らせたが今日若干の旅費を與へ鄉里に戻らせた

磐中對入山
9―3
野球試合
磐中優勝

磐城中學校對入山炭礦の野球試合は昨七日正午より入山グランドに於て行れたが九對三のスコアーで磐中大勝した

第一校の
兒童貯金調
第二校より少ない

平第一小學校に於ける現在の兒童貯金額は尋常科一萬三百九十九圓九十七錢、高等科二千百二十五圓八錢、合計一萬二千五百二十五圓五錢にて第二小學校に比較すると三千四百圓許り少ないと

中寺生れの
政公御用
窃盜詐欺を働き

石城郡澤渡村字中寺生れ當時住所不定伊藤政二（二〇）は本月二日頃好間村字町田川口マサ方の不在中忍入り現金六圓餘を窃取逃走せる外平町附近で八件餘の犯罪を重ね豫て平署で手配中の處昨七日南町地内で平署員に檢擧された

平職業紹介所報告

回　人を求める方

△商店雜役　二十才　尋卒　月五圓（平町某）
△商店員　二十二才　尋卒　十圓（平町某）
△雜夫　四十以下　日給六七十錢外面談（平町某）
△賣子　三十前後　尋卒　賣上の二割給す（平町某）

回　職を求める方

△工場雜夫　十七才　高卒　給料面談（相馬郡某）
△事務員　二十一才　中卒　給料面談（大浦村某）
△運送店車力　二十一才　高卒　給料面談（玉川村某）
△雜夫　二十六才　尋卒　給料面談（内鄉村某）

JOBK 明日のラヂオ
九日

天氣豫報
今晚も明日も南西の風晴曇相半す

今晚の部

▼後六、〇〇　子供の時間　史劇「新田義貞」東京放送童話劇協會
▼後八、〇〇　新田義貞公の夕（講演）文學博士中村孝也（琵琶、稻村ケ崎）榎本芝水（放送舞臺劇、求女塚身替新田）
▼後九、三〇　時報　ニース氣象通報　番組豫告

明日の部

▼前六、三〇　基礎ドイツ語講座（十二）橋本忠夫
▼前九、一〇　料理献立「鰯の龍田塲」東京女子職業學校
▼前一〇、三〇　家庭講座「美しく見せるセルの着方」芝山みよか
▼後〇、〇五　俚謠
▼後二、〇〇　婦人講座
▼後二、二〇　野球試合狀況　東京大學野球聯盟リーグ戰―明治神宮外苑野球塲より中繼
▼後六、〇〇　子供の時間　獨唱と管絃樂　獨唱黑澤貞子　管絃樂東京ラジオオーケストラ
▼後六、二五　趣味講座「現代に應用される忍術の話」伊藤銀水
▼後七、三〇　講演「獨逸の政變と教育」廣島文理科大學教授新見吉治
▼後八、三〇　浪花をどり　北陽演舞塲より中繼
▼後八、〇〇　連續講演「難波戰記」第一席旭堂南陵

藤原鎌足

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第三百三十二號

上田馬之助

目附の善右衛門

上田馬之助はまだ三十歳にならずして劍道師範役に登用された、前にも申した通り頑固一方の劍術の先生ではない、それに江戸で産湯を流した者とて土臭い所がない、灰汁拔けてゐますそれですから人交際も宜しい、吉原などへも遊びに行くが肉に憧れて行くのではない、たゞ女を相手に酒を飲むが樂み、醉ふと得意の美聲で歌澤などを唄ふ、聞くものは惚れ〳〵したとのこと、すると細川能登守の目附役で緒方善右衛門と云ふ者がある、目附役は却々威權がありまして家中の者の行ひを見る、それですから目附に睨まれると若い者はギョッとした、處が此の善右衛門の伜に今年廿一歳になる新三郎と云ふ者がある、これは頗る放蕩で、親父の金を持ち出しては吉原で遊ぶ、甚だしきは遊びの入費に大小を預け無腰で歸つて來ることもある、今日も吾妻橋向ふ中ノ郷の細川邸の通用門へ駕が下りたが其中から出たは新三郎、緋縮緬の長襦袢只一枚着て手拭頻冠りをして門を入つた門番吃驚してほうづきの化物が來たと思つた

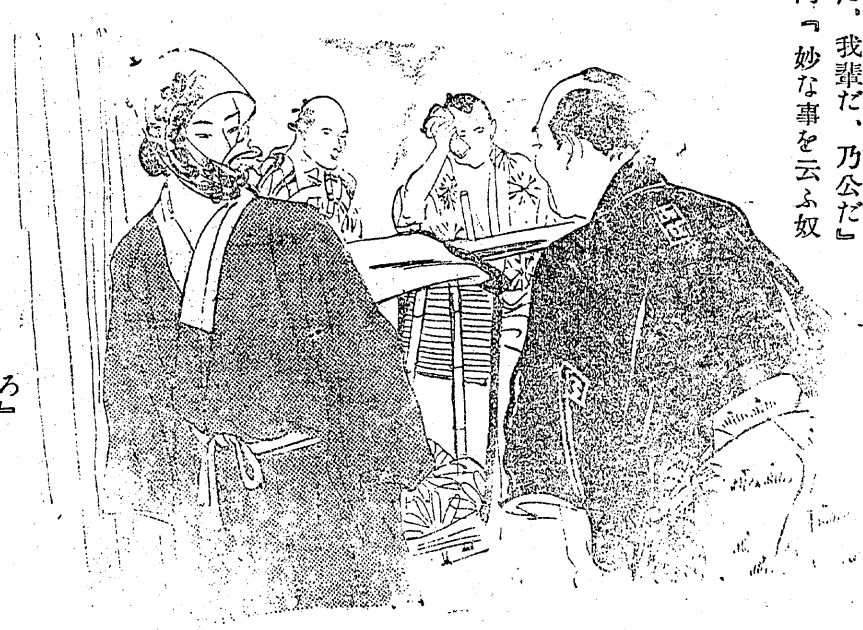
門『まて〳〵、何だ貴樣は眞赤な姿をして』

新『オイ俺だ、拙者だ、某だ、我輩だ、乃公だ』

門『妙な事を云ふ奴三郎樣だ、時に門番駕屋に一分拂つて置いてくれ、大門から乘つて來た駕だ』

門『ヘエ只今手許に一分ございませんが』

新『何だ一分ないと、哀れな境涯だな、一分は一兩の四ッ割の一ッだ、その錢がないとは氣の毒でな、譯のわからねえ馬鹿野郎だ、何百石といふ高祿を取つてゐる、世の中はさうしたものだ、俺が此處の殿樣になると增加してやるぞコレ〳〵駕屋、少しそこに待つて居ろ』



と云ひ捨て住居へ歸つて來た

新『今戻つたぞ、オイ誰もゐないか』

と云ひながら玄關から上る、若徒の治平が新三郎の姿を見てこれも驚いた

治『美しい物を召してお出になりました』

新『ウム着てゐた衣裳は幇間にやつて了ひ、そこで花魁の襦袢をかりて來た、門の表に駕屋が待つてゐるから酒代と共に駕賃を一分やつつてくれ』

治『畏りましてございます』

それから一分持つて出て行つたが間もなく引返して來て

治『奥へいらつしやいまし』

新『親父は何うした』

治『御殿へお出になりまして夕方でなければお下りになりません』

新『母は何うした』

治『二三日前よりお風邪を召しましておやすみなすつていらつしやいます』

新『母は弱いな、尤も若い中から陰氣であつたが年を老つては一層元氣がなくなつて氣の毒な事だな』

治『貴下の事を御心配なさいますからお身体に障ります』

新『そんなこともなからうオ、寒くなつて來た、着物を持つて來てくれ』

こゝで女中に云ひ付けて着物を着替へた

新『オ、宜い心持だ、熱く酒を燗けて持つて來てくれ何ぞ旨さうなさかなを二三品取り寄せろ』

自分の部屋に引取り女中の酌で盃を取つたが

新『大分陽氣が宜くなつたな、モウ彼岸櫻も咲くだらう』

女『左樣でございますお庭の櫻は大分色づいて參りました』

新『春は氣も浮き立つな、コレ〳〵治平此處へ來て相手をしろ』

治『有難いことでございますが、私は御酒は無調法でございまして』

新『嘘を吐くな、先月貴樣は兩國の大橋(飲食店)から醉つて出て來たではないか大橋は刺身が名物だ、下卑ては居るが厚切りで鮪は本當だから味が宜いな、貴樣はヒョロ〳〵よろけながら出て來たぞ、さすれば酒は飲めぬと云はれまい』

治『いや何うも飛んだ處を見られしれまてございます』

と云ひながら禿頭をツルリと撫でて苦笑ひをした。

産土・焼物・手ぬぐい
ウニヤキ
魚岡屋
最優最大日本生命平代理店
榮　盛　賀　志
平四丁目（電二一三）

科人婦・科外
井坂醫院
平町田町
電話五五九番

改稱御知らせ
新藤屋（支店別館）改め
鐵道省遞信省御指定
旅館甲陽館
店主　武田コウ
平町驛前電話一四八番

◎診療時刻午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず
平町　磐城共濟會
電話六四一番

磐城共濟病院案内
院長　醫學博士　石山謙郎
自宅（電話一二四番）

内科　醫學博士　石山謙郎
小兒科　醫局員　佐久間粹郎
外科　醫學博士　桂重次
耳鼻咽喉科　醫學士　有馬勇二郎
皮膚科　醫學士　五十嵐雄二
産婦人科　醫局員　佐久間粹郎
X光線科　醫學博士　石山謙郎
技師　工藤慶造郎
衛生試驗所　醫學博士　石山謙郎
技師　高後利雄郎
藥局　藥劑士　吉本孝平